

「台湾大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学文学部 1年 手代木 さつき

私は今、台湾から帰ってきてしまったという喪失感に苛まれている。あっという間に過ぎ去っていった3週間、その間に会った様々なことが次々と脳裏に浮かんで消える。そんな感傷に浸りながら、今回の台湾短期留学の収穫、反省を以下に報告する。

留学の前後で、自分に起きた最も大きな変化は、台湾の捉え方である。以前は、共に共通語が中国語であるという理由から、中国と台湾を漠然と1つの国家のように捉えていた。台湾に滞在する中で、そのような意識ががらりと変わった。中国語教室の先生や台湾大学の学生との交流の中で、彼ら彼女らが、自分たち台湾人と中国人とをはっきり区別しているように感じた。また、街中や土産物店でしばしば目にする中華民国の旗から、台湾が1つの国家と見なされているように感じられた。このことは、新聞やインターネットで情報を集めていた時には感じられず、台湾に来て初めて実感したことであったので、今回の留学の大きな意義であったと思う。また、留学に対する考え方も変わった。台湾大学の学生や他の参加者との交流の中で、留学は高いハードルではなく、むしろチャンスがたくさんあるものだと思うようになった。今回は、台湾という土地柄もあり、プログラムが日本人向けであったということもあり、日本語を話す場面が多々あった。Student adviser の学生の中には日本語の上手な学生もいて、時に日本語での会話に逃げてしまっていた。それが今回の反省である。次に海外留学する際には、多少不自由があろうとも日本語が通じない場所に行き、勉強から生活に至るまでどっぷり英語又はその国の言葉につかるような環境に行きたいと思う。

今回私が参加した NTU Spring+1 program は、中国語学習、観光共に非常に充実したプログラムだった。特に、平日午前中の中国語授業は、中国語を用いて中国語を学ぶもので、大変有意義だった。3日目にクラスを一つ上げてもらったのだが、その要望にも丁寧に対応してくださった。先生は、たくさんの例を挙げての新出単語・文法の説明や、中国語を使ってのゲームなど、私たち生徒が理解しやすいように様々な工夫をしてくださった。本当に素敵な先生に出会えたと思う。私の中国語は、軽い会話はできるが読み書きがほぼできないというレベルのものだったが、授業で作文の宿題がよく出されたので、必死に単語を調べながら作文した。宿題やテストの準備が大変な時もあったが、今思えば、中国語の集中特訓としては意義のあるものだった。私のクラスは、冗談も言い合えるようなリラックスした雰囲気、毎日いろいろな話をするのがとても楽しかった。プログラムには授業のほかにも、観光旅行が含まれていた。割とハードなスケジュールで、最終日に体調を崩してしまったが、結果として台北を満喫することができた。プログラムの間、Student adviser の学生たちが旅行の準備や引率、最終プレゼンテーションの準備の手伝いをしてくれるなど、細かいところまで面倒を見てくれた。彼らには感謝してもしきれない。

私はまだ専門とする分野を絞っておらず、それを決めるうえでのヒントを見つけることも、今回の留学の目的であった。はっきりとしたヒントは掴めなかったが、台湾滞在を通して、東洋史への興味が芽生えてきた。きっかけは、台湾大学で京大の名誉教授とお会いした時に、「近代アジアの歴史上の問題は、台湾の歴史に全て含まれている」というお話をお聞きしたことだ。植民地支配、戦争、独立運動など、台湾は今も昔も大きな歴史のうねりの中にある。二・二八記念館を見学したこともあって、台湾の歴史に対する興味が増した。東洋史を学ぶなら、中国語の強化が必須である。ちょっとした会話ができる程度の今の私の語学力は実に中途半端だ。もっとしっかりと中国語を勉強しよう。これが、今回の短期留学から帰ってきた私の出した結論である。

我這次留學的最大的收穫是我能結識了很好的朋友們。他們對我很親切。我衷心感謝他們。

因爲我回國見不到他們了，所以我現在感到非常寂寞。不過，從日本到臺灣很近，所以我想再去臺灣跟他們見面。非常感謝京都大學國際交流中心的老師們給我這次難得的機會。

